

令和七年度教育推進協議会は、十一月十九日（水）に川口市立並木公民館にて、現職校長四十一名、退職校長三十五名、保護者二名、来賓二名の参加を得て開催された。

新海今朝已支部長の挨拶、黒澤誠教育事務所長の挨拶と講話、酒井一昭小学校長と会長の挨拶に続き、御来賓の川口市教育長井上清之様、県退職校長会副会長吉武覚様からもご挨拶を頂いた。

その後、後述の三つの提案を受けて、質疑を含めた活発な協議、指導講評と進め、盛会の裡に終了した。

発表1 様々な危機への対応と未然防止の体制づくり

いじめ・不登校への適切な対応と体制づくり

資料作成

川口市立神根小学校

発表者 篠崎 弘敬校長

川口市立舟戸小学校

いじめ課題解決のための取り組みとして、発達支持

的生徒指導、課題未然防止教育、課題早期発見対応、困難課題対応的生徒指導に努めた結果、いじめ認知件数が大幅に減少した。

また、不登校児童への取り組みとして、ほつとルームの活用、個別ファイルを作成して努力の跡が見える化して教員間で連携を図った結果、不登校児童が少しずつ減少した。

発表2 生き生きと輝く対話を生み出す道德教育

「本質的な問い」のある授業を通して

川口市立八幡木中学校

岸田 健吾 校長

本校は、令和六・七年度川口市教育委員会の「徳力向上」の研究委嘱を受け、開智国際大学教育学部教授土井雅弘先生のご指導をいただき、「本質的な問い」のある授業を展開することによって、互いが高め合える生徒の育成を進めている。

道徳の授業は、教師の中心発問に対して生徒の発言を二つに分け、「私の理由は

○○だ」と一つの理由を挙げた生徒が比較・吟味を通して多様な理由を知り、一番納得できる理由をつかみ取っていく。八幡木中「発問シート」を活用し、教師の問いを重ねる対話によって、道徳的価値を高めている。

発表3 学校経営アドバイザーから見た令和の学校経営『『未来の当たり前』を共創する』

退職校長会（蕨戸田班）

小高美恵子 会員

現代は変化が当たり前の時代。未来社会を創る責務を担う学校は、変化の兆しを掴み、自ら変わり続けることが重要である。

教育はチームで創るもの。

急流の川を下るラフティングの如くわくわくと経営したい。「個の尊重」が極意。個が活きる、個を活かす組織経営が鍵となる。管理職はコンパスと時計をもち、変化に迅速に調整する猫の眼と視点を变える蝙蝠の眼を働かせながら、未来の当

たり前を共創して頂きたい。  
『教育を支える全ての人が  
主人公である』という意思  
をもちながら…。

（文責 松田裕之）